

## 研究内容の説明文

献血者説明用課題名 (括弧内は公募申請課題名)	より効果的な輸血療法に関する研究 Research on More Effective Methods for Preparing Cryoprecipitates (院内同種クリオプレシピテート作製法に関する研究)
研究開発期間 (西暦)	2024 年 10 月～2027 年 3 月
研究機関名	札幌医科大学附属病院
研究責任者職氏名	教授・高橋 聡

## 研究の説明

## 1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

大量出血などに伴い、血液中の止血に作用する凝固因子が失われることで、さらなる出血量の増加や止血が困難になることが報告されています。そのため、急速に不足した凝固因子を補充することが重要となりますが、現時点において国内で使用できる薬剤は、ごく一部の病態に限定されています。一方、日本赤十字社から製造・販売されている新鮮凍結血漿から、一部の凝固因子を濃縮した同種クリオプレシピテートが国内の医療機関において作成することが保険承認されています。ただし、各施設で作製されているこれらの品質およびその効果については明らかになっていません。そこで、より良い作製法を明らかにすることで、同種クリオプレシピテートによる効果的な輸血療法が期待されます。

## 2 使用する献血血液の種類・情報の項目

献血血液の種類：血漿（規格外）

献血血液の情報：なし

## 3 共同研究機関及び研究責任者氏名

共同研究機関はありません。

## 4 献血血液の利用を開始する予定日

2026 年 6 月 1 日

## 5 研究方法《献血血液の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液のヒト遺伝子解析：行いません。 行います。

《研究方法》

提供された血漿について、2～6℃の低温下にて 24 時間 1 回融解し、析出したクリオプレシピテートを回収した場合（1 回法）と、融解後、-20℃以下にて再凍結を行

い、さらに2~6℃の低温下にて24時間融解して析出したクリオプレシピテートを回収した場合(2回法)で得られるクリオプレシピテートについて比較検討を行います。検討項目として、原材料血漿のフィブリノゲン濃度、析出したクリオプレシピテートのフィブリノゲン濃度および析出しなかった成分のフィブリノゲン濃度をそれぞれ測定します。原材料血漿のフィブリノゲン濃度に対して、析出したクリオプレシピテート中に含まれるフィブリノゲン濃度の比率が高い方法が、より適切なクリオプレシピテート作製法であると考えられます。

- 6 献血血液の使用への同意の撤回について  
研究に使用される前で、個人の特典ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。
- 7 上記6を受け付ける方法  
「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号	R080048
------	---------

本研究に関する問い合わせ先

所属	札幌医科大学附属病院 検査部
担当者	村井 良精
電話	011-611-2111 (内線 36410)
Mail	r.murai@sapmed.ac.jp